



TOHO ASEAN REPORT

【とうほうアセアンレポート】

2023 年 6 月号

Contents

☆ アセアン企業インタビュー

SHOEI VIETNAM CO.,LTD.

General Director 小野 和夫 様

☆ 財閥について

ベトナムレポート : ベトコムバンク駐在 若林 遼

タイレポート : 法人コンサルティング部
(前カシコン銀行駐在) 瀬谷 純一

☆ ASEAN ニューストピックス

☆ 東邦銀行の海外事業支援に係る連携・業務提携先

本レポートに掲載されているデータや資料は情報提供を目的としたものであり、
当行が信頼に足り、且つ正確であると判断した情報に基づき作成したものではありません。
具体的には法律上、会計上、税務上の助言を必要とされる場合は、それぞれの専門家にご相談ください
ますようお願い致します。



すべてを地域のために

東邦銀行

アセアン企業インタビュー

SHOEI VIETNAM CO., LTD.

～日本品質の印刷技術をベトナムで～

企業概要

代表者：小野 和夫（おの かずお）General Director

所在地：No11, street9, VSIP Bac Ninh, Phu Chan,
Tu Son, Bac Ninh, Vietnam

事業内容：印刷業

設立：2009年2月

従業員数：約350名

親会社：昭栄印刷株式会社（新潟県新発田市）

小野和夫 General Director

1996年 昭栄印刷株式会社入社

新発田市本社勤務

2006年 DTP 事業部長に昇格

2012年 SHOEI VIETNAM 代表

として駐在開始

2019年 昭栄印刷株式会社取締役を兼任



今回のアセアンレポートでは、ベトナムでのビジネスチャンスに挑戦し続けている企業のひとつである「SHOEI VIETNAM CO., LTD.」（親会社/昭栄印刷株式会社）の General Director 小野和夫様へのインタビューを掲載いたします。

昭栄印刷株式会社様は新潟県新発田市を本社とする印刷会社です。新たなビジネスチャンスを掴みに進出した、ベトナムでの事業内容と今後の展望についてお話を伺いました。

■ベトナムで新たな事業分野を開拓

一御社の事業内容について教えてください

日本本社はいわゆる薄物と言われる印刷物全般（雑誌等の出版物、パンフレット、チラシ等の商業印刷物）を得意とし、最近では印刷物だけではなくデジタル広告や販促事業等、幅広く取扱いしています。

ベトナム法人では主に厚物と言われるパッケージを中心に印刷展開を行っており、これにより日本でこれまで取引の無かったメーカー様とも、ベトナムを切り口として取引拡大が図れるようになりました。

またベトナムの人件費の安さと勤勉な国民性を強みにして、細かく丁寧な内職作業が中心になる見本帳事業もベトナム進出と同時に開始し、新たな事業分野を開拓しています。



<ベトナム現地法人社屋>



<工場内に掲げられる当社スローガン>

■勤勉な国民性と豊富な労働力

ー御社が強みと感じているものは何ですか

毎年上昇している人件費ではありますが、他国に比べればまだ安価です。そして勤勉な国民性、そしてスタッフの平均年齢の若さは非常に強みです。当社のマネージャークラスも全員 30 代で、まだまだこれからの可能性が楽しみです。



＜業務を行う従業員 左：パッケージ用糊つけ機 右：マニュアル印刷機械＞

■ベトナムに日本の印刷技術を広めよう

ーベトナムへ進出するきっかけを教えてください。

元々ベトナムから実習生を受け入れていたので、定期的にベトナムへ渡航していました。そして渡航すればするほどベトナムにこれからの可能性を感じておりました。

当時は、パッケージ印刷を行える日系印刷会社がベトナム北部には無く、また現地の印刷会社では品質が追いつかないことから、多くの進出企業が印刷業者探しに大変苦労されていたようです。

このような状況であれば自分たちで工場を立ち上げ、ベトナムで挑戦してみよう！と本社長が決心したのがきっかけです。私は進出当初からベトナムを担当しており、最初の約 3 年間は出張ベースで渡航しておりましたが、会社の期待と家族の応援と同意（帯同）もあって、ベトナムで頑張ろうという事になりました。



＜大型の印刷機械①＞



＜大型の印刷機械②＞

■日本の当たり前とベトナムの当たり前

ー事業定着までに大変だったことはありますか

一番苦勞した事は社員の教育です。まず絶対に納期を守る事。日本では当然の事ですが、これをベトナム人スタッフに浸透させるのに本当に長い時間がかかりました。

そして高品質の徹底。日本への渡航経験が無いスタッフには、なかなか理解する事が難しい日本の当たり前をいかに浸透させるか本当に苦勞しました。

日本人にとっては本当に当然の様な事が、ベトナムでベトナム人の社員に教育して、理解してもらう事の難しさを本当に強く感じ、長い間苦勞しました。現在ではこれらを理解したベトナム人のマネージャーが先頭に立ってマネジメントしてくれる事で、会社内がスムーズに動いています。

取引先の開拓についても進出当初は非常に苦勞しました。工場建設中の段階から、ベトナム国内の日系企業様に訪問し営業活動を進めておりましたが、工場も無い状態で信用も実績もまだ足りない状況での営業は非常に苦勞しました。そんな中でも当社とのお取引をお決め頂いたお客様があり、工場完成と同時に生産開始する事が可能だった事は、今考えると非常にありがたかったと思います。

営業活動と並行して資材等の調達も全てベトナム国外からの調達だったので、調達ルート確保にも苦勞しました。ベトナム進出から12年経過した今では全てが当然の様に自然に出来ている事が、進出当時は本当に大変で、今では良い思い出です。



<事務所内営業スタッフの皆さん>



<高品質のカギとなる検品作業の様子>

■面談スタイルの変化

ー新型コロナウイルスの影響でどのような変化がありましたか

幸い当社のある VSIP バクニン工業団地はコロナの影響が少ないエリアではありましたが、それでも約2カ月間、社員が工場に泊まり込みで生産しなければならない時期がありました。ハノイ市～バクニン省間の移動も制限されたので、日本人も工業団地内に家を借り、工場まで5分程の所に2カ月間住んでおりました。非常に厳しい期間ではありましたが、社員全員で協力して乗り越えた経験は非常に貴重だったと思います。

コロナ禍によってオンラインミーティングが普通になったことから、遠距離のお客様とのミーティングの機会が増え、より密にコミュニケーションが出来るようになったと感じております。

■アフターコロナを迎えた今

ー今後の展望について教えてください。

他社が真似できない高品質な印刷物で差別化を図り、ベトナムでの調達に困られている日系企業様のお手伝いをこのベトナムで努力して参りたいと思います。

当社で扱っているパッケージは色や品質等、日本でも難しいレベルの印刷物をご相談される事が多く、それをこのベトナムでご提供できる事が当社の強みと考えています。

引き続きベトナムで生産される日系企業の皆様のお力になれる様に努力致します。

【インタビューを終えて】

今回のインタビューに際し工場見学を行わせていただきました。大きな工場だったので、大型印刷機械が並ぶ姿は感動するものがありましたが、何より印象に残った事が整理整頓され且つ清潔な工場内の様子でした。我々は外から小さなゴミも持ち込まないよう装備をして入室。工場内スタッフの皆さんもマスク、キャップ着用で作業を行います。確かに異物混入は大きなロスへ繋がりますが、ここまで万全の体制で工場が動いていることに驚きました。

またインタビュー内での社員教育に関する部分ですが、文化の違いは当然ながら就労意識に関しても同じであり、日本の当たり前とベトナムのあたりの違いが最初の大きな壁だったはずですが。どちらの当たり前にも善し悪しがありますが、日本品質を追い求める以上は日本のあたり前を浸透させる必要があります、そこには相当のご苦勞があったかと思えます。そのご苦勞があつてこそ今のマネジメントがあり、それが高品質なものづくりへと繋がっていることを実感しました。(担当：若林 遼)



＜工場内にて 左：小職 右：小野社長＞

【ベトコムバンクのご紹介】

■銀行名称：JOINT STOCK COMMERCIAL BANK FOR FOREIGN TRADE OF VIETNAM
(Vietcombank)

■設 立：1963 年

■本店所在：198 Tran Quang Khai Street, Hoan Kiem District, Hanoi

■銀行概要：ベトナム 4 大国営銀行の一角。みずほ銀行と資本提携関係にあり、ベトナム国内外に 500 を超える営業拠点を構える。外貨決済業務に強みがあり多くの外資企業との取引を有する。日系企業向けの取引については、ジャパンデスクを設置し、日本人および日本語対応可能なスタッフによるサポート体制を構築している。

【現地駐在員の主な業務内容】

◇ジャパンデスクによる、日系企業に対する幅広い金融サービスの提供。

◇東邦銀行は、南部ホーチミン市へ行員を派遣。金融面をはじめ、お客さまの海外進出、販路拡大等のニーズについて総合的なサポートを実施します。



＜ベトコムバンク・ホーチミン支店＞

ベトナムレポート

「ベトナムの財閥について」

1. はじめに

日本で経済を牽引している企業の中にも旧財閥系企業は多く存在しますが、ベトナムにも財閥と呼べるような企業体(コングロマリット)が存在します。社会主義国家という背景から主要企業の多くは政府系の国営企業(または旧国営企業)ですが、中には民間の大手企業体も存在します。

【ベトナムの主な財閥（地場民間企業）】

企業体	主要業種	売上高	従業員	特徴
ビンググループ	不動産(マンション、リゾート、百貨店)、教育、医療等	約 5,800 億円 (2022 年)	4 万人	不動産事業を中心に、自動車、病院、百貨店など展開するベトナム最大手民間企業体
ホアファットグループ	鉄鋼、非鉄金属、農業、不動産等	約 8,100 億円 (2022 年)	3 万人	国内最大手の鉄鋼メーカー。ベトナムの製造業を支えるだけでなく、多角経営を行う
モバイルワールドグループ	家電・通信機器販売	約 7,500 億円 (2022 年)	8 万人	国内大手家電量販店やスーパー、食料品店も展開する小売に特化した企業体
マサングループ	小売、食品等	約 4,300 億円 (2022 年)	4 万人	食品加工に関する分野にて生産から小売までを一貫して提供。チリソースや魚醤も有名
FPT グループ	情報、通信	約 2,500 億円 (2022 年)	4 万人	ベトナム最大の情報通信業者。IT 系の教育機関も運営する。世界各国に拠点を有す



＜モバイルワールドの家電店「thegioididong」＞



＜マサングループのコンビニ「WinMart」＞

2. ビンググループ(VIN GROUP)について

ベトナム国内の数ある企業体の中でも、一際存在感を放つのが「ビンググループ」です。同グループの中核事業である不動産開発業を中心に大きく成長し、住宅不動産販売、医療機関、農業開発、自動車製造等、100 社を超える子会社を傘下としています。国内の至る所にビンコム、ビンパール、ビンホームズ等「VIN (ビン)」の名を冠した施設が存在し、国民の生活に密着しています。

(1) 主なビングループ企業

会社名	業種	特徴
ビンホームズ (Vinhomes)	不動産開発	高級住宅開発事業。大規模コンドミニウムを展開し、高層タワーマンション群が軒並み開発されている。
ビンコム (Vincom)	ショッピングセンター	国内一等地にショッピングモール「ビンコムセンター」を展開。国内大手衣料品店も当社テナントに多く出店。
ビンパール (Vinpearl)	リゾートホテル開発	滞在型リゾートやゴルフ場などを運営。大型リゾート遊園地「VinpearlLand(ビンパールランド)」も有名。
ビンファスト (Vinfast)	自動車・バイク製造	2017年にベトナム初の国内自動車メーカーとして設立。ガソリン車生産を停止しEV車特化。欧米市場にも参入。
ビンスクール (Vinschool)	教育事業	小中高一貫教育。同グループは大学「Vin university」も経営。
ビンメック (Vinmec)	医療事業	総合病院を運営。ベトナム国内医療機関の中でも、高度な医療水準を有し、高い評価を得ている。

(2) 街を形成するビングループ

下記の写真は、ホーチミン市中心部のビンタン区にある「ビンホームズセントラルパーク」です。2016年に竣工した全17棟、約1万戸のマンション群(写真左)を有するホーチミン随一の巨大商業施設であり、敷地内には*東南アジアで最も高いビル(461.3m)であるランドマーク81(写真中)、ショッピングモール(写真右)、総合病院の他、映画館等の娯楽施設、スーパー、コンビニ、飲食店、生活用品まで何でも揃う「VIN(ビン)」の街が形成されています。(*2023年5月時点)



<高層コンドミニウム群>



<ランドマーク81>



<ビンコムセンター>

(3) これからのビングループ

創業者であるブオン会長の方針のもと、世界に誇る工業メーカーを目指し2017年に自動車メーカー「Vin Fast(ビンファスト)」を設立。現在は時代に合わせ電気自動車(EV)のみの生産に切り替え、欧米市場に参入しています。東南アジアの新興メーカーであるビンファストが世界の自動車業界で活躍する姿に期待したいところです。



<Vin FastのSUV型電気自動車 VF8>

3. 終わりに

ベトナムにおいては、社会主義国家である以上、民間企業も政府の後ろ盾が重要となります。特にビングループは政府と「二人三脚」と言われるように、ベトナム財閥企業の世界進出は国家プロジェクトの一つと言えるでしょう。国を挙げて成長を続けるベトナム企業が政界で活躍する姿を今後もお伝えして参ります。

タイレポート

「タイの財閥について」

タイには国内事業に重要な役割を担い、大きな影響力を持つ財閥が存在します。タイの財閥は国内 GDP の約 50% を占めており、近年では国内のみならず、アセアン、中華圏と広く展開し、アジア地域での存在感も増しています。また、日系企業と深い繋がりを持つ財閥も複数あり、日系企業がタイに進出する際にも大きな影響を与えています。

今回はアジアで絶大な影響力を持ち、タイ経済を牽引する財閥についてレポートします。

1. タイ財閥の種類

タイには大きく 2 種類の財閥があり、「王室系」と中国からの移民の「華僑系」に分けられます。王室系の財閥はタイ王室と密接な関係を持ち、王室の保護の下で事業を展開していることから、安定的な経営基盤を有していることが特徴です。一方、華僑系はタイに住む華僑系の富裕層が中心となって設立されました。タイ経済の成長に大きく貢献しており、政治的な影響も大きく、タイ国内のみならず、アジア各国にも事業展開しています。

【主なタイ財閥】

財閥名	基幹産業	売上高	従業員	特徴
サイアム・セメント 	建設資材、化学、包装	161 億米ドル (2021 年)	5.4 万人	東南アジア最大最古の建設資材財閥。自動車、建設、家電等、製造業全般に大きな影響力を持つ。国王が筆頭株主の王室系財閥。
CP 	食料品、通信、小売	608 億米ドル (2021 年)	40 万人	セブンイレブンや大手小売店舗を多数展開し、各分野で主要地位を占める巨大財閥。華僑系。
サハ 	食品消費財	80 億米ドル (2021 年)	10 万人	約 80 社の大手日系企業と合併を形成。タイで事業を行う日系企業にノウハウを提供可能。華僑系。
セントラル CENTRAL GROUP	小売、食品	80 億米ドル (2021 年)	8 万人	タイ小売最大手。大型デパートやスーパーマーケットを有し、不動産開発事業も展開。華僑系。
TCC 	飲料、不動産、小売	540 億米ドル (2021 年)	6 万人	タイビール「チャーンビール」を製造販売。高級ホテル、商業施設を運営。華僑系。

財閥が経営する企業はタイ国内に多くの雇用を生み出し、タイ人の生活を支えています。また、財閥が経営するショッピングモールやホテル等の施設は利便性が高く、生活の質を向上させる一因となっています。一方、財閥の一部富裕層に財産が過度に集中しているといった批判の声もあります。タイでは上位 1 % が国全体の約半分の資産を保有しているともいわれており、一般庶民がタイの経済成長を実感できていないという現状の原因の一つとなっています。

2. 日本と繋がり深い財閥

(1) CPグループ

CPグループは従業員40万人を抱えるアジア最大級のコングロマリット企業です。手掛ける事業は食品、小売、通信、不動産、エネルギー等多岐にわたり、世界20カ国に約400社を展開しています。日本でもCPフーズとして、様々な食品が全国のコンビニやスーパーで販売されています。

タイでは日々CPグループの商品、サービスにふれており、日本でも馴染み深いセブンイレブンもCPグループによって経営されています。セブンイレブンはタイ国内で1万以上の店舗数を誇り、人々の生活に欠かせないものとなっています。これはCPグループが高品質な製品に加えて、手頃な価格で簡単に享受できるサービスの提供を長年にわたり注力してきた結果、広く国民に浸透しました。



<セブンイレブンに陳列されるCP食品>

また、CPグループは2014年に伊藤忠商事と業務提携を行っており、伊藤忠商事に約1,000億円の出資を行いました。現在は伊藤忠商事の約4.3%の株式を保有する、実質的な筆頭株主となっており、両社でアジア地域への事業展開を画策しています。

(2) サハグループ

サハグループは消費財の製造販売に強みを持ち、古くから日本企業との合併を積極的に進めています。グループ会社数は300社に上り、うち約80社は日系企業との合併会社と親日なタイ財閥として知られています。その理由として、グループ会長のブンヤシット氏が日本での就業経験を持ち、日本でのビジネス感覚を備えていることが挙げられます。

【日系企業との主な合併会社】

業種	企業名	業種	企業名
小売・消費財	ライオン	飲食店	幸楽苑
	ローソン		新宿さぼてん
	ツルハドラッグ	商業施設	ドン・キホーテ

サハグループの運営する工業団地の一つには「シラチャ工業団地」があり、入居企業の約90%を日系企業が占めています。シラチャ地区は日本人が約1万人在住するタイ国内2番目の日本人街であり、サハグループと日系企業の合併会社が目立ちます。



<Jパーク内の幸楽苑>

また、同グループは日本をテーマにした商業施設、「Jパーク・シラチャ」を運営しており、日本食レストランやドン・キホーテが入居する、シラチャに住む日本人の生活に欠かせない施設となっています。

3. 終わりに

タイでは財閥が経済に与える影響は非常に大きく、タイ市場の動向を知るためには、各財閥企業の動向把握が重要です。タイでの事業展開を目指す日本企業にとって、財閥グループに入ることは、強力な後ろ盾を得ることができ、成功への有効手段となるでしょう。

ASEAN ニューストピックス

<ベトナム>～世界一ビールが安い国～

ベトナムは一人当たりの年間ビール消費量がアジアでは中国、日本に次ぐ第三位。休日のお昼になると屋外で昼からビールを飲む人たちが目立ちます。

そして何といても目立つのが価格の安さ。物価についてはこれまでもお伝えしてきましたが、ベトナムは世界一ビールの安い国として知られ、缶ビール 1 缶 60 円程度。また野外のビアガーデンのようなところでよく飲まれている「ビアホイ」（生ビールを意味します）に至っては 1 杯 50 円程度で飲むことができます。

ちなみにベトナムの代表的な乾杯の発声は「モッ！ハイ！バー！ヨー！（1！2！3！入れるぞ！の意味）」。ぜひベトナムで酒文化の違いに触れてみてください。



<写真左：代表的なビール「333 (バーバーバー)>、写真中央・右：ベトナムの居酒屋の様子>

<タイ>～タイのアルコール販売について～

日本ではコンビニ等で 24 時間いつでもアルコールを購入することができますが、タイでは違います。タイでアルコールを購入可能な時間は 11 時～14 時、17 時～24 時と法律で定められています。そのため、コンビニやレストランでは販売可能時間を過ぎてしまうと購入することができず、写真のように、販売ケースにカーテンが掛けられ取り出せないようになります。この法律が定められた明確な理由は不明ですが、一説には、制定当時は勤務中でも飲酒する人が多く、社会問題化したためとも言われています。

また、タイでは終日アルコール販売禁止となる、「禁酒日」が存在します。禁酒日は仏教由来の祝日（年間 5 日間）と選挙日前日と当日が禁酒日となります。選挙日も禁酒日となっているのは、酔った状態で投票に行くようなことでは正しい判断ができないという意味があるようです。禁酒日にはアルコール提供できないことから休業とするレストランも多く、どこか静かな雰囲気となっています。

お酒好きな方がタイへ訪問される際には、毎年異なる禁酒日の日程を確認されることをお勧めします。



<販売禁止時間のアルコール販売ケース>

東邦銀行の海外事業に係る連携・業務提携先

弊行では、各種海外の専門家と提携し、会計・税務、国際物流、貿易保険など幅広い分野でお客様の海外取引を支援しております。

＜とうほうグローバル・ネットワーク＞



ご提供サービス	業務提携先
海外リスクコンサルタント	東京海上日動火災保険 三井住友海上火災保険 損害保険ジャパン
海外貿易保険	日本貿易保険 (NEXI)
会計税務コンサルタント	有限責任監査法人トーマツ デロイトトーマツファイナンシャルアドバイザー
海外セキュリティー	ALSOK 福島 セコム
国際物流	日本通運
海外販路拡大	アリババ Inagora (中国向け)
翻訳・通訳サービス	パソナ

その他、お客様のニーズに合わせた、各種専門家のご紹介が可能です。ご要望の際には、お気軽にご相談ください。